

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-0033  
 住 所 東京都中央区新川一丁目17番24号  
 氏 名 味の素物流株式会社 印  
 代表取締役社長 薩摩 秀平  
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	味の素物流株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島17番地10		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	食品を主体とする物流サービス		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,531	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	経営企画部
		所在地	東京都中央区新川一丁目17番24号
		電話番号	03-5542-3621
		FAX番号	03-3555-3163
		メールアドレス	

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理体制の整備</li> <li>・管理標準の整備</li> <li>・エネルギー使用状況の把握</li> <li>・原単位の管理</li> <li>・評価と改善</li> </ul> 詳細は、指針様式第1号（第4、5面）の通り
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送にかかるエネルギー使用量算出のトンキロ法から燃費法への転換による、トンキロ当りのエネルギー（燃料）使用量変化の関係分析</li> <li>委託先へのエコドライブ推進及び低公害車導入の要請</li> <li>効率の良い配車の実施</li> </ul> 詳細は、指針様式第1号（第6面）の通り
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の資源化（通常廃棄⇒リサイクル化）</li> <li>・廃棄物の発生量抑制（分別・排出物の管理）</li> <li>・輸送委託先への「エコ運搬」の実施要請</li> </ul> 詳細は、指針様式第1号（第6面）の通り
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

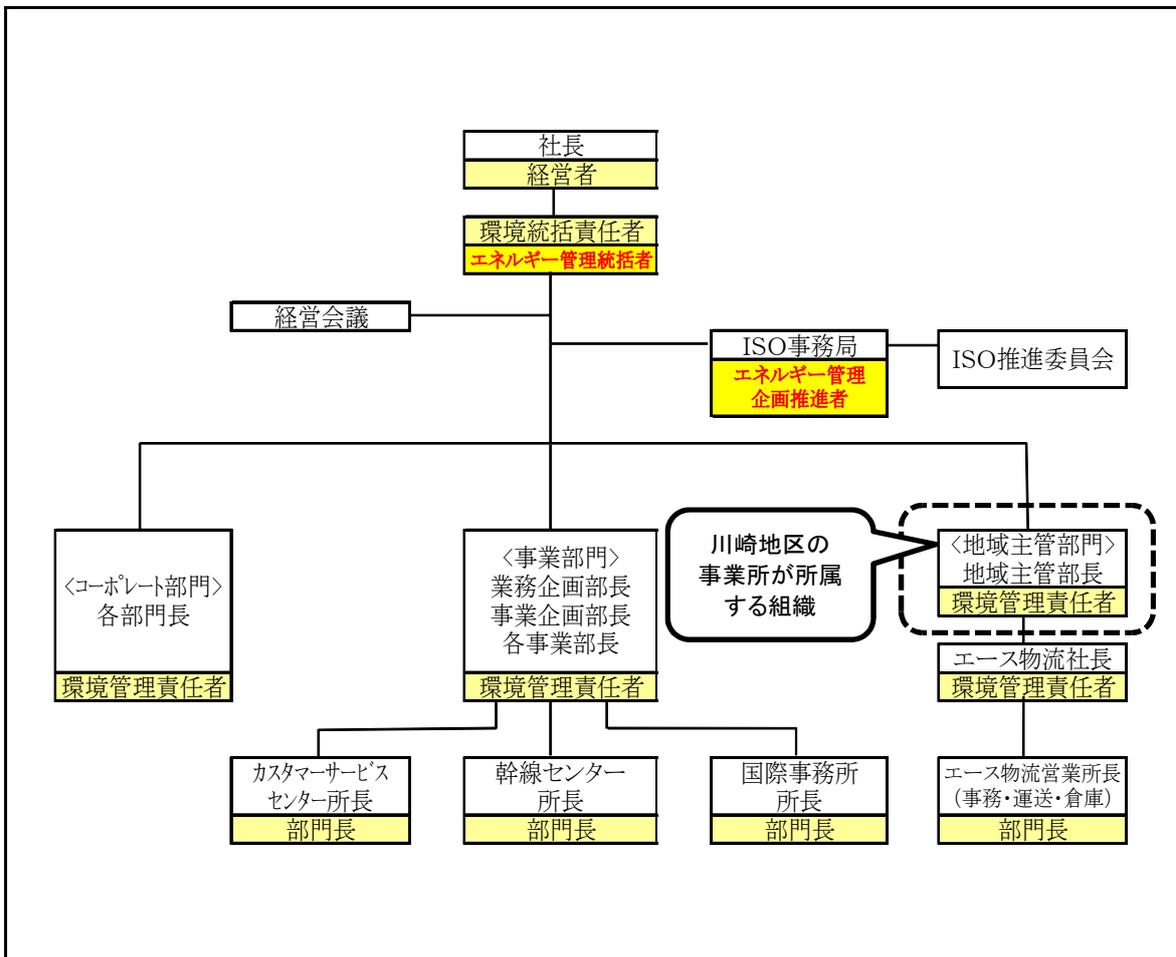
## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

川崎地区の事業所を含む味の素物流グループ全体の環境方針として、以下に定めている。

1. CO2を中心とした地球環境への負荷低減に努めます。
2. 資源を大切にすることを原点に、省資源、省エネルギーに努めます。
3. 環境に関わる国・地方自治体の法規制及びその他の当社が同意する要求事項を遵守します。
4. 環境マネジメントシステムを構築・文書化して継続的改善及び汚染の予防を推進します。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 4,166 (調) 3,346	t-CO <sub>2</sub>	(実) 4,041 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 3.0	%	(実) 125 t-CO <sub>2</sub>

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	延床面積	単 位	t-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>
基準年度の値	0.04879	目標年度の値	0.04733
削減率	3.0	%	
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

<p>川崎地区について、全社の考え方に基づき、年平均でCO<sub>2</sub>排出量原単位1%の削減を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギーを使用する設備の管理標準を設定し、運用の徹底を図る</li> <li>・ エネルギー使用量の定期的な測定・管理と使用量変化の関係分析を実施する</li> </ul>
--

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

<p>省エネルギー法（事業者単位規制）に基づき、 全社目標として年平均でCO<sub>2</sub>排出量原単位1%の削減を目標とする。</p>
--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理体制の整備 ISO14001 (環境) のマネジメントシステムに包含して、エネルギー管理体制を構築する。</li> <li>2. 管理標準の整備 エネルギー使用設備 (空気調和・換気設備, 受変電設備, 照明設備, 昇降機, 給湯設備, 事務用機器及び建物) を対象として「運用管理」「計測・記録」「保守・点検」の管理標準を定め、運用の徹底を図る。</li> <li>3. エネルギー使用状況の把握             <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理が必要な設備に対する測定機器の設置</li> <li>・測定値の記録</li> <li>・エネルギー使用量変化の関係分析</li> </ul> </li> <li>4. 原単位の管理             <ul style="list-style-type: none"> <li>・月毎の原単位の推移を管理</li> <li>・異常値の発見と即時是正対応</li> </ul> </li> <li>5. 評価と改善             <ul style="list-style-type: none"> <li>・半期毎の環境管理委員会で評価 (レビュー) の実施</li> <li>・評価の結果、目標未達成に対し改善指示</li> </ul> </li> </ol>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

倉庫の屋上部に太陽光パネルの導入を検討したが、倉庫の上部に設置するにはパネル重量が現状の 1 / 2 以下でなければならない事がわかり、導入を見合わせた。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

- ・ 冷凍倉庫（保管庫）の設定温度を変更し、エネルギー使用量の削減を図った
- ・ 照明機器に反射板を取り付け、照度を明るくした

## 6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

## 1. 燃費法への転換

(2010年度)

2010/4 長距離便の燃費法移行

2010/10 近距離便の燃費法移行

(2011年度以降)

トンキロ当りのエネルギー（燃料）使用量変化と、配車効率・車両燃費との関係を分析し、効率の良い配車、燃費の向上（ドライバーへのエコドライブ推進、委託先への低公害車導入の要請）を行っていく。

⇒CO<sub>2</sub>排出量を原単位（トンキロ当り）で、年平均1%削減

## 2. 子会社の自社車両のエコドライブ推進

デジタルタコグラフ導入により、エコドライブを推進

⇒自車平均燃費を、年平均1%向上

## 7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

## 1. 廃棄物の資源化

- ・ 定常的に発生する廃棄物は、リサイクル業者へ委託  
資源化率95%以上を目標と定め、北海道以外はほぼ100%リサイクル化を達成

## 2. 廃棄物発生量の抑制

- ・ 倉庫作業における汚破損による廃棄物の発生を物流品質の向上によって抑制
- ・ 事業系一般ごみの分別を推進し、廃棄発生量を抑制

## 3. エコ運搬の要請（川崎市条例対応）

配送委託先の運送事業者及び納入業者へ書面によるエコ運搬の要請

- ・ エコドライブの実施及びエコドライブを行う旨の表示
- ・ NO<sub>x</sub>PM法不適合車の不使用
- ・ 低公害・低燃費車の積極的な使用

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	4,166	t-CO <sub>2</sub>
(調)	3,346	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東扇島第一低温物流センター	川崎市川崎区東扇島 17 番地 10	4711	倉庫業	2,077 t-CO <sub>2</sub>
川崎物流センター	川崎市川崎区鈴木町 1 番 1 号味の素川崎事業所内	4711	倉庫業	1,283 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500kl 未満	1
300~400kl 未満	
200~300kl 未満	
100~200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--